

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第 10 期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和 8 年 7 月

＜石狩市＞

「在宅介護実態調査」の概要

1 目的

第10 護保険事業計画の策定に向けて、要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効なサービスのあり方を検討するため行った。

2 調査対象

下記要件の全てを満たす人

- ・要介護（支援）認定調査を受ける人
- ・更新申請・区分変更申請の人のみ（新規申請は対象外）
- ・在宅の人（現在のサービス利用の有無は問わない）

3 調査期間

令和7年10月31日（金）～令和8年2月13日（金）まで

4 調査件数

235 件（全有効）

5 調査手法

要介護認定更新時訪問調査に併せ調査員の聞き取りにより実施。

6 集計結果について

集計結果は、「単純集計版」（調査概要及び集計数値）及び「クロス集計版」（考察等により考察を行った。調査票は別紙「在宅介護実態調査票」のとおり。

目次

1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 介護のための離職の有無	[P. 5]
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 6]
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 7]
(10) 施設等検討の状況	[P. 7]
(11) 本人が抱えている傷病	[P. 8]
(12) 訪問診療の利用の有無	[P. 9]
(12-2) 利用している訪問診療病院等の位置	[P. 9]
(12-3) 訪問診療（医療）の利用頻度	[P. 9]
(13) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 10]
(14) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 10]
(15) 現在の介護サービスを利用し、今後も自宅で生活続けることの可否	[P. 11]
(16) 利用できない または不足を感じるサービス	[P. 11]
(17) 地域包括支援センターの認知度	[P. 11]
(18) 在宅医療の認知度	[P. 12]
(19) 長期療養で希望する場所	[P. 12]
(20) 最後を迎えたい場所	[P. 13]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 14]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 14]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 15]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 16]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 17]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 17]
(6) 主な介護者の健康状態	[P. 18]
3 要介護認定データ	[P. 19]
(1) 年齢	[P. 19]
(2) 性別	[P. 19]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 20]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 20]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 21]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 22]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 23]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 23]
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 24]

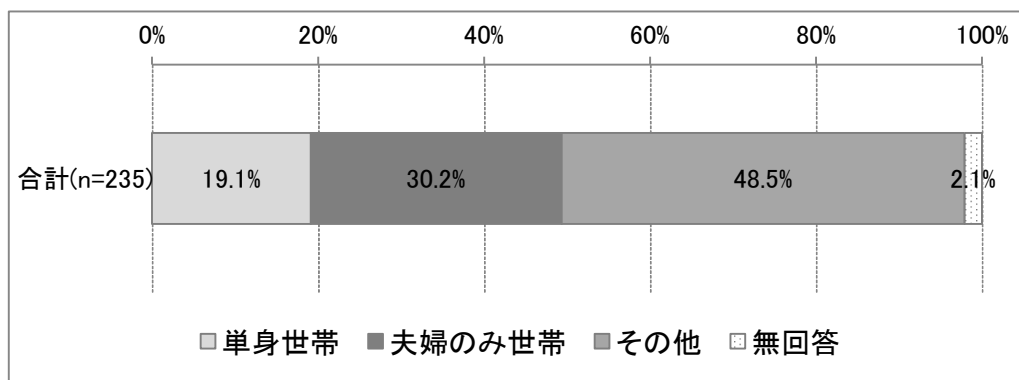
※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 48.5%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯（30.2%）」、「単身世帯（19.1%）」となっている。

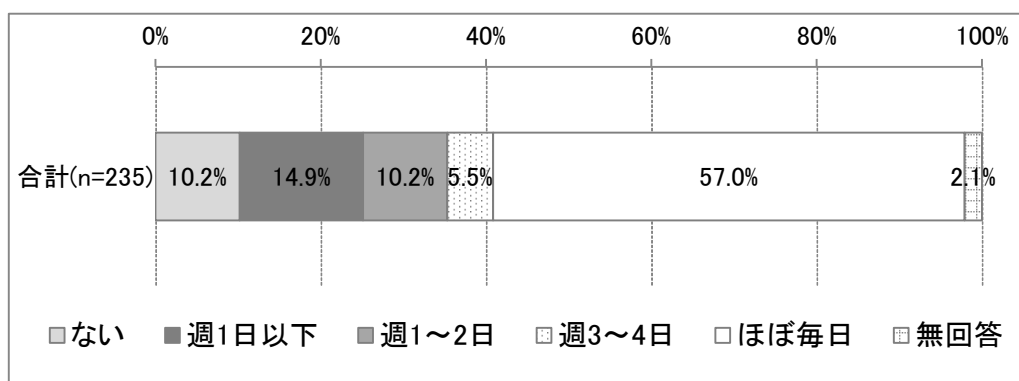
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 57.0%となっている。次いで、「週1日以下（14.9%）」、「週1～2日（10.2%）」、「ない（10.2%）」となっている。

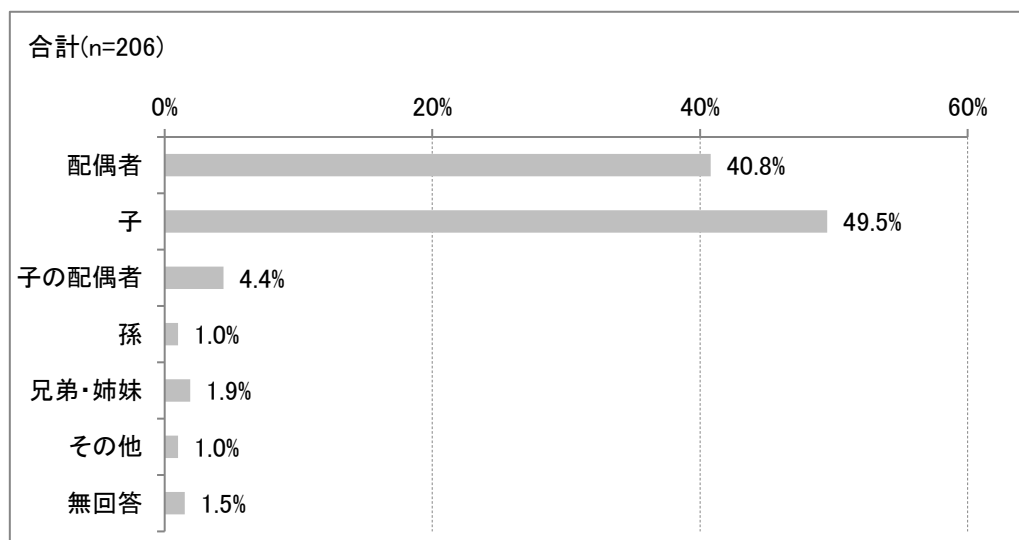
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 49.5%となっている。次いで、「配偶者（40.8%）」、「子の配偶者（4.4%）」となっている。

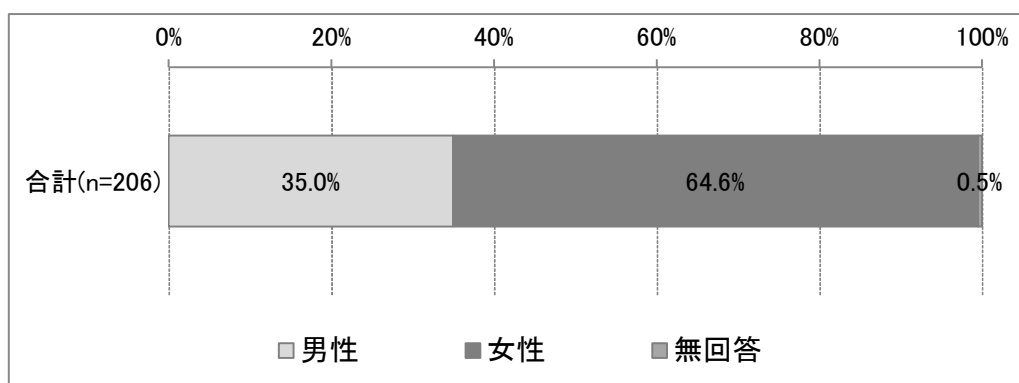
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 64.6%となっている。次いで、「男性（35.0%）」となっている。

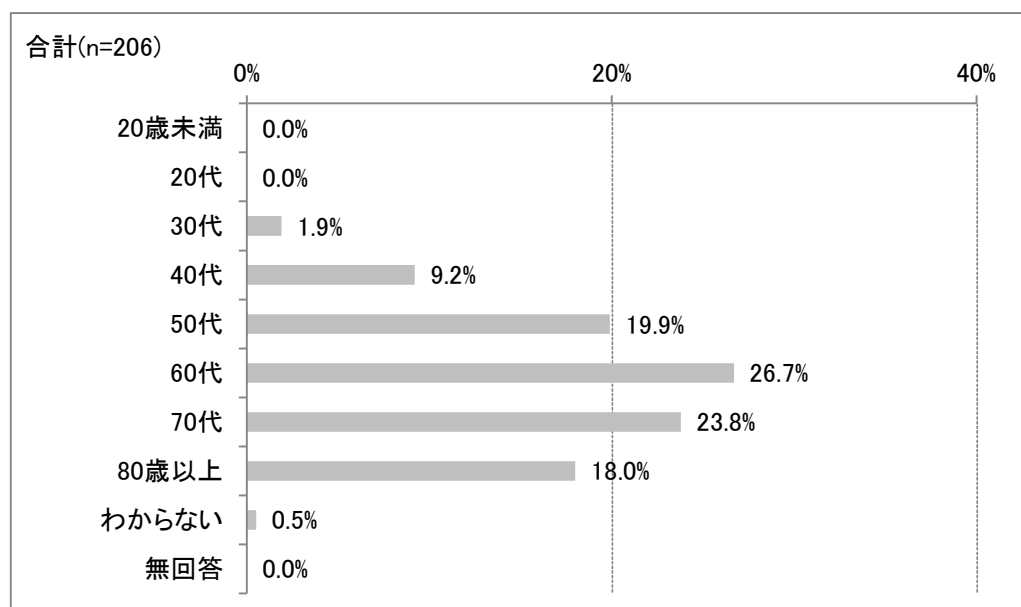
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 26.7%となっている。次いで、「70代（23.8%）」、「50代（19.9%）」となっている。

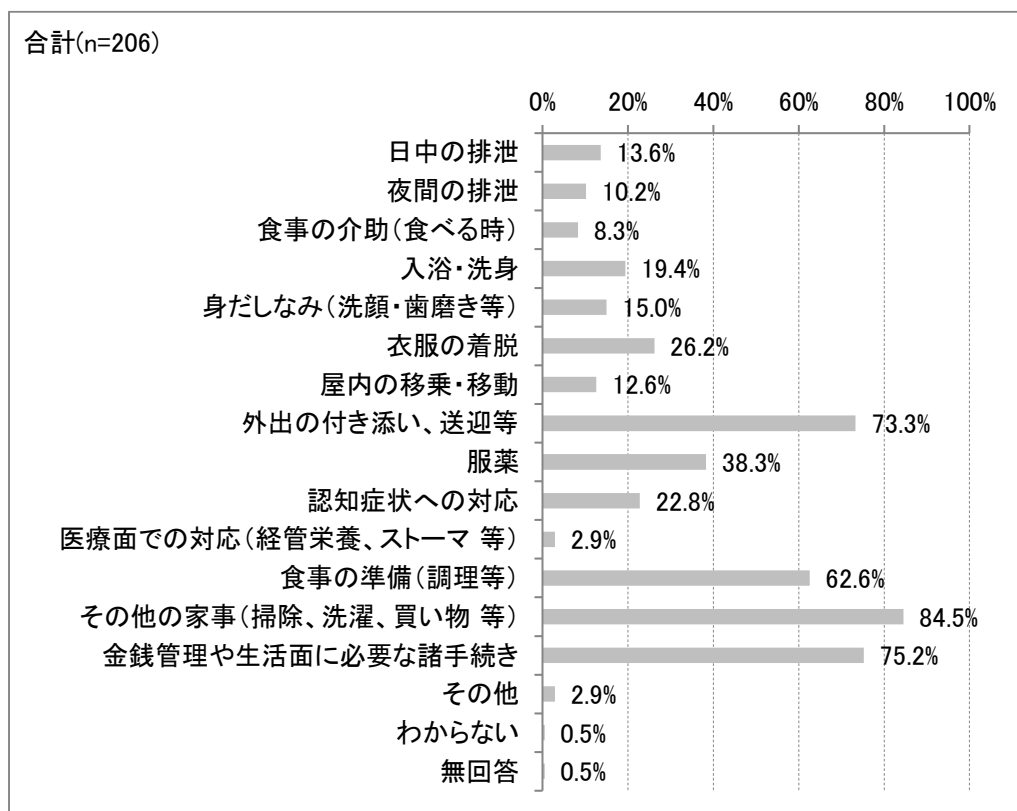
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 84.5%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（75.2%）」、「外出の付き添い、送迎等（73.3%）」となっている。

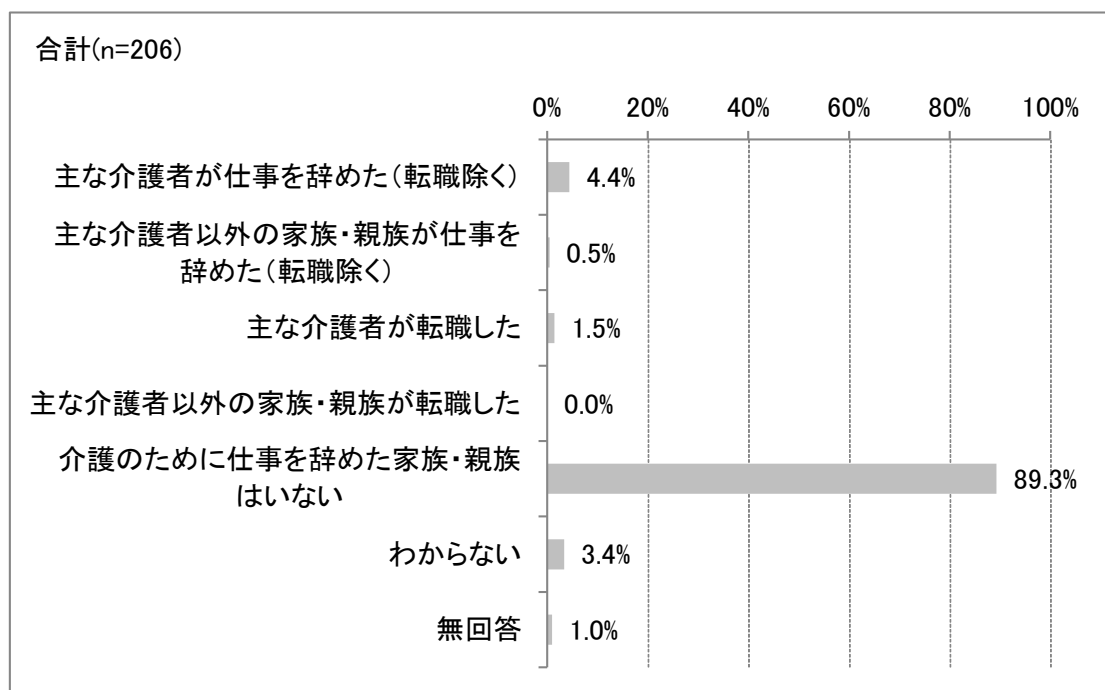
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 89.3%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（4.4%）」、「わからない（3.4%）」となっている。

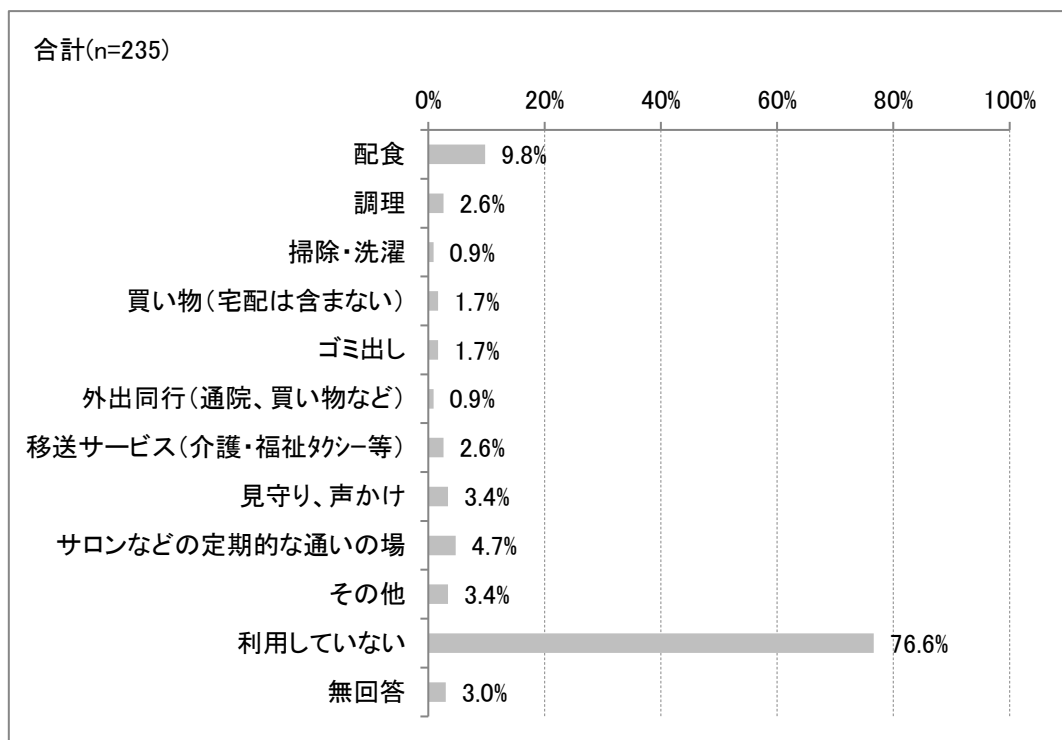
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 76.6%となっている。次いで、「配食（9.8%）」、「サロンなどの定期的な通いの場（4.7%）」となっている。

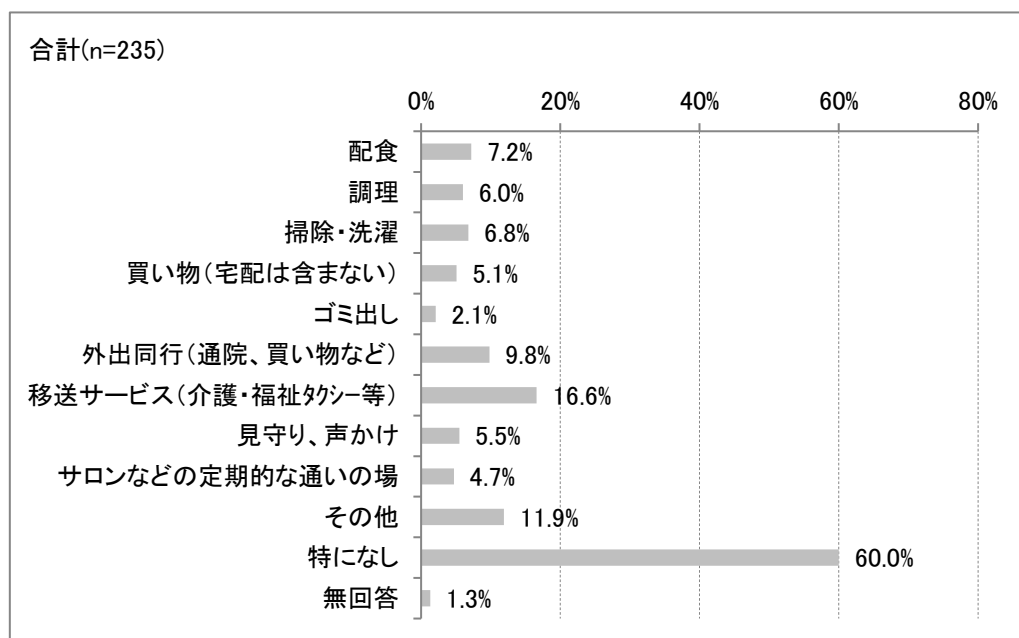
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 60.0%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（16.6%）」、「その他（11.9%）」となっている。

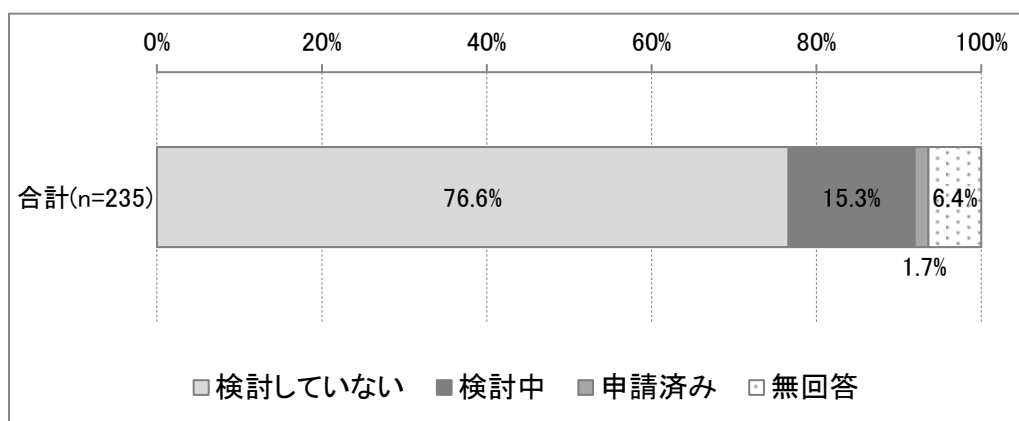
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 76.6%となっている。次いで、「検討中（15.3%）」、「申請済み（1.7%）」となっている。

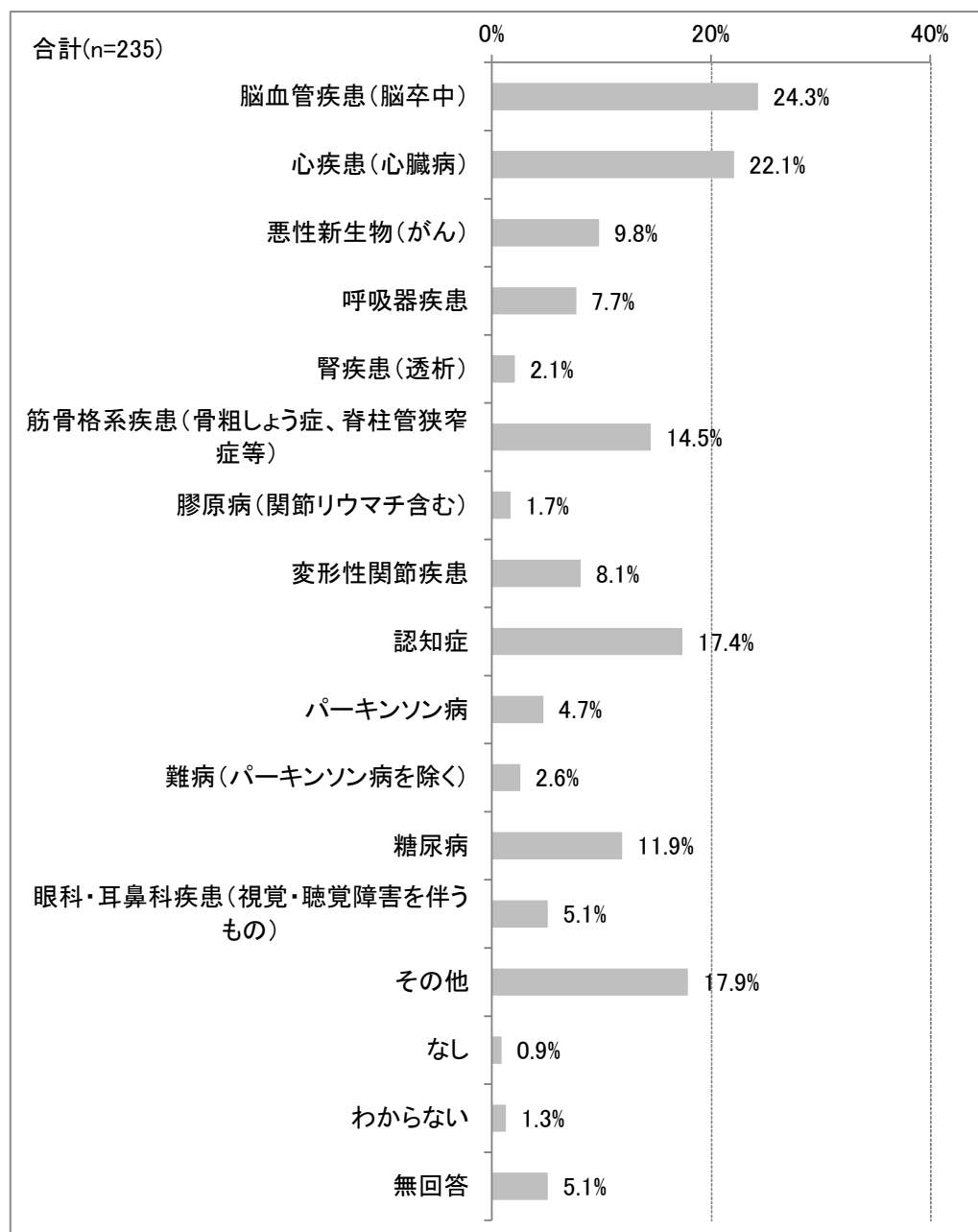
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が最も高く 24.3%となっている。次いで、「心疾患（心臓病）（22.1%）」、「その他（17.9%）」となっている。

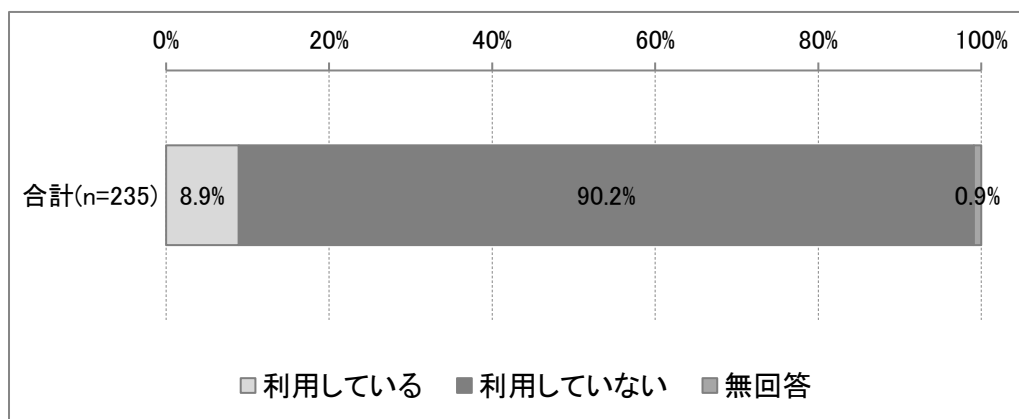
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

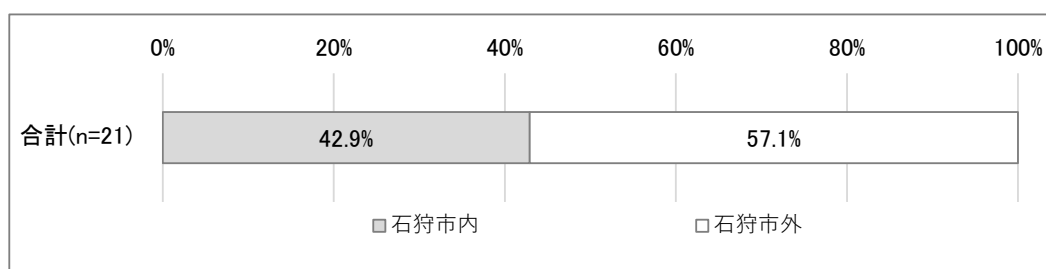
「利用していない」の割合が最も高く 90.2%となっている。次いで、「利用している (8.9%)」となっている。

図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



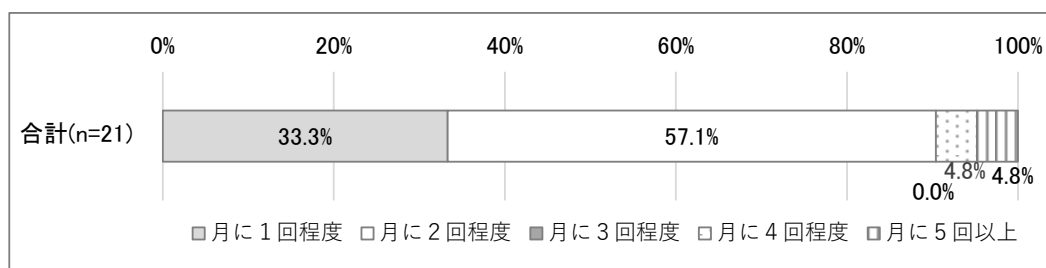
(12-2) 利用している訪問診療病院等の位置

図表 1-12-2 ★(市)利用している訪問診療（医療）の病院等は、どこにありますか(単数回答)



(12-3) 訪問診療（医療）の利用頻度

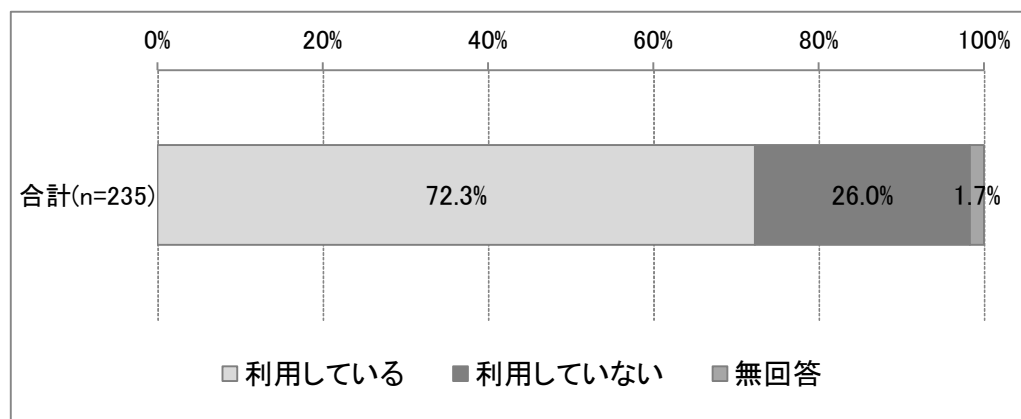
図表 1-12-3 ★(市)訪問診療（医療）の利用頻度はどのくらいですか（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 72.3%となっている。次いで、「利用していない (26.0%)」となっている。

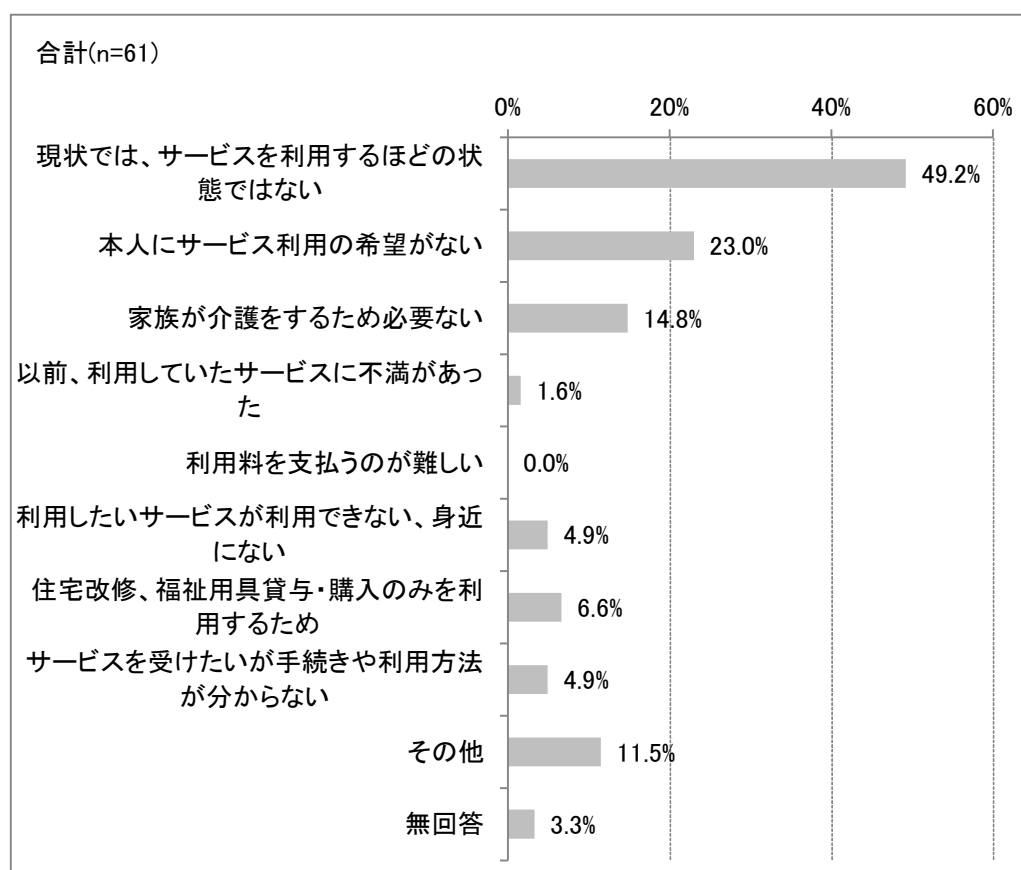
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

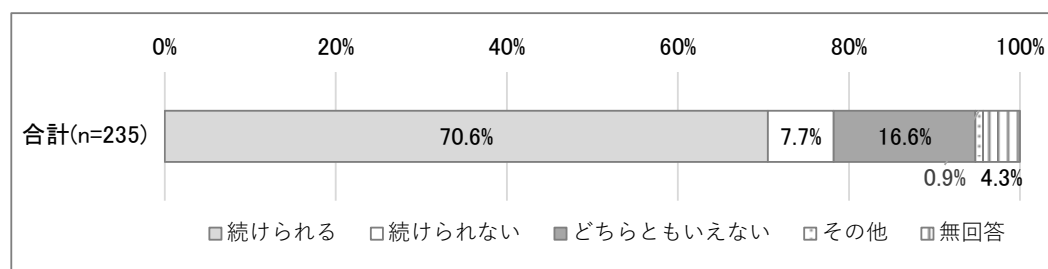
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 49.2%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない (23.0%)」、「家族が介護をするため必要ない (14.8%)」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



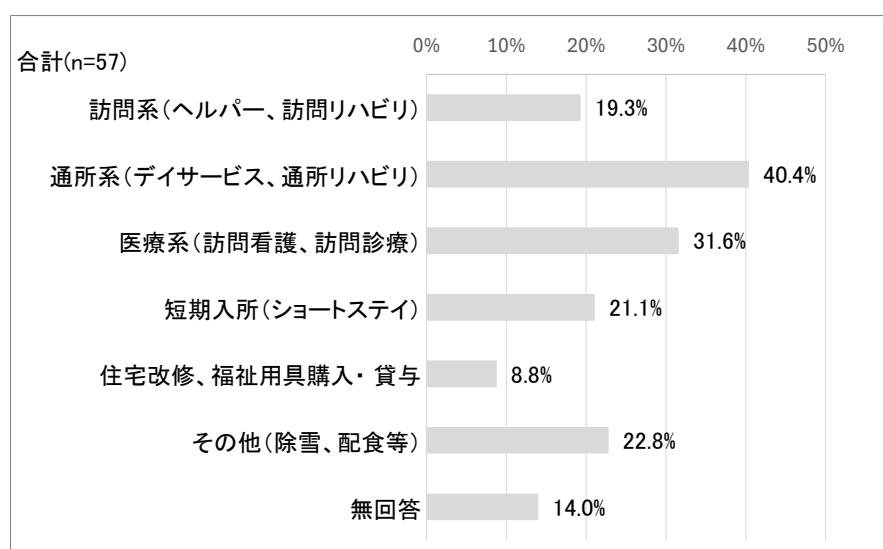
(15) 現在の介護サービスを利用し、今後も自宅で生活することの可否

図表 1-15 ★(市)現在の介護サービスを利用し、今後も自宅で生活することの可否（単数回答）



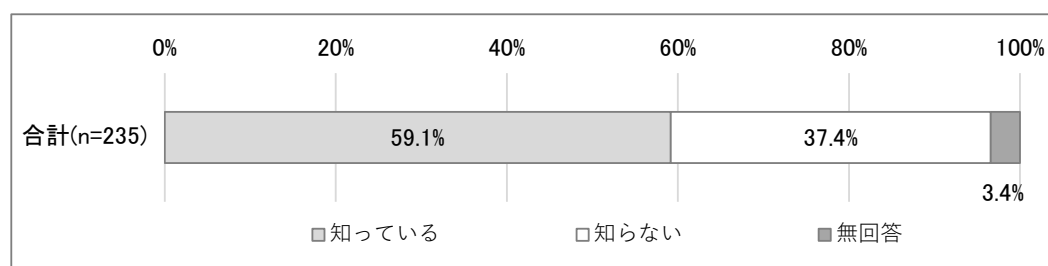
(16) 利用できない または不足を感じるサービス

図表 1-16 ★(市)利用できないまたは不足を感じるサービスをすべて選んでください(複数回答)



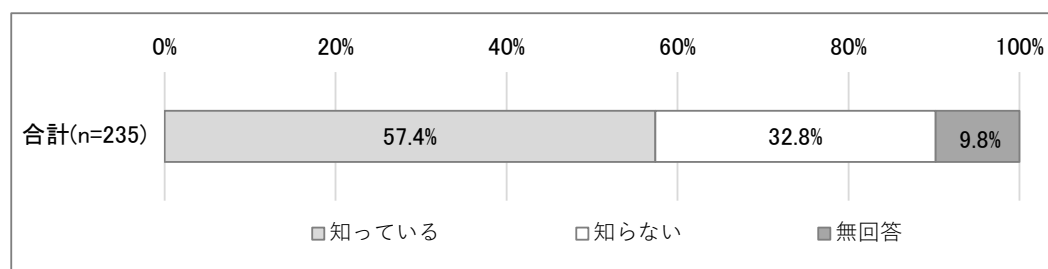
(17) 地域包括支援センターの認知度

図表 1-17 ★(市)ご本人（認定調査対象者）は、高齢者の相談窓口である地域包括支援センターを知っていますか（単数回答）



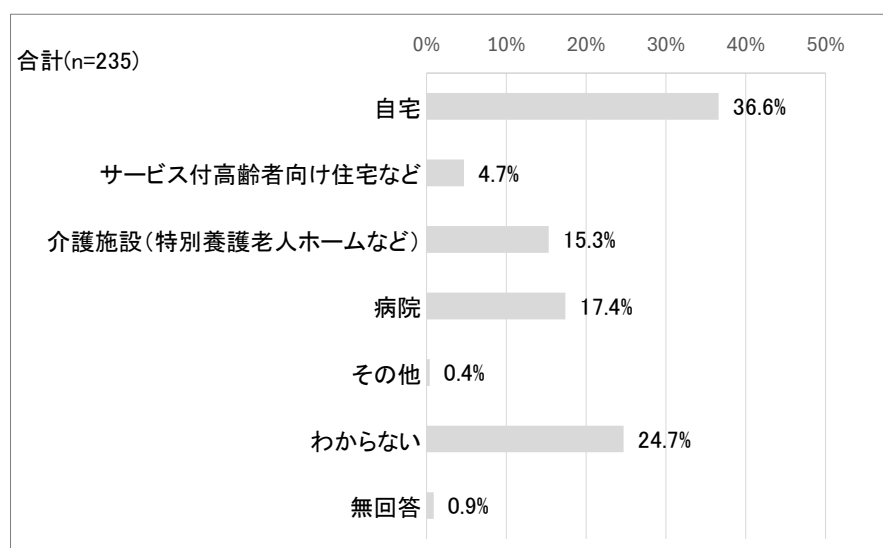
(18) 在宅医療の認知度

図表 1-18 ★(市)ご本人（認定調査対象者）は、在宅医療について知っていますか（単数回答）



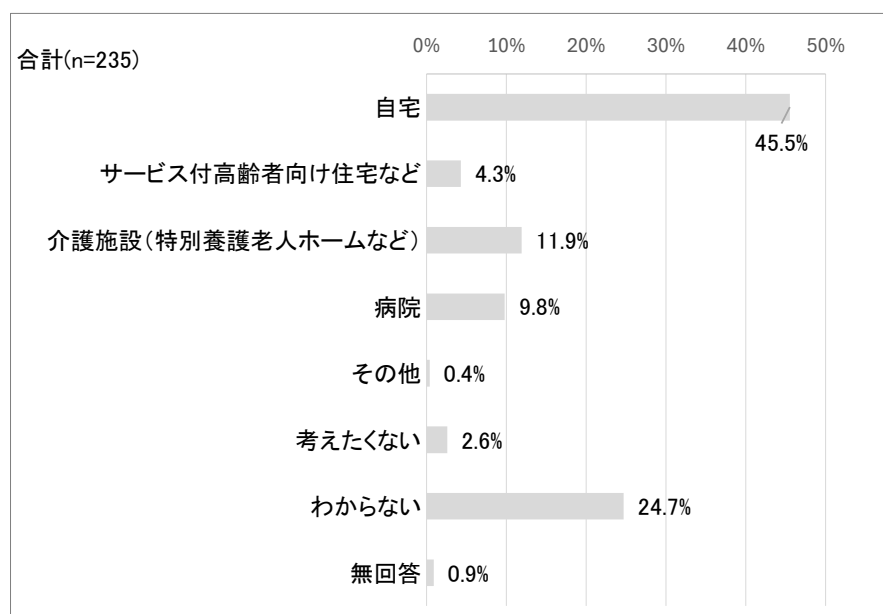
(19) 長期療養で希望する場所

図表 1-19 ★(市)ご本人（認定調査対象者）は、長期療養が必要になったとき、どこで療養したいですか（単数回答）



(20) 最後を迎えたい場所

図表 1-19 ★(市)ご本人（認定調査対象者）は、どこで最期を迎えたいとお考えですか
（単数回答）

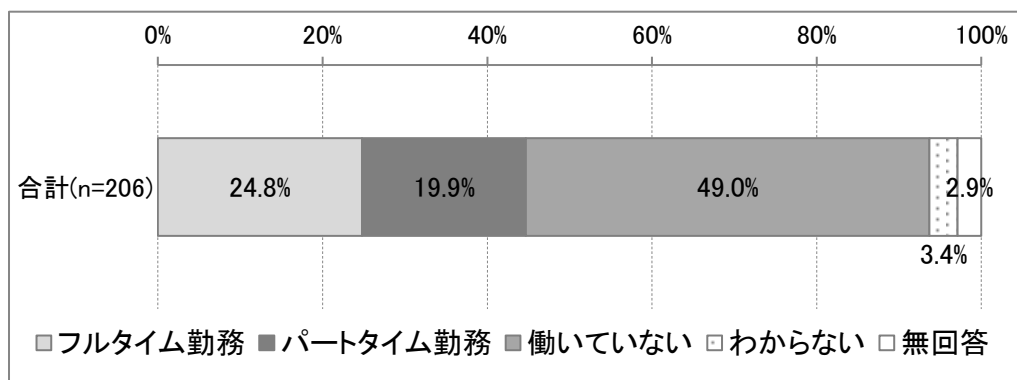


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

（1）主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 49.0%となっている。次いで、「フルタイム勤務（24.8%）」、「パートタイム勤務（19.9%）」となっている。

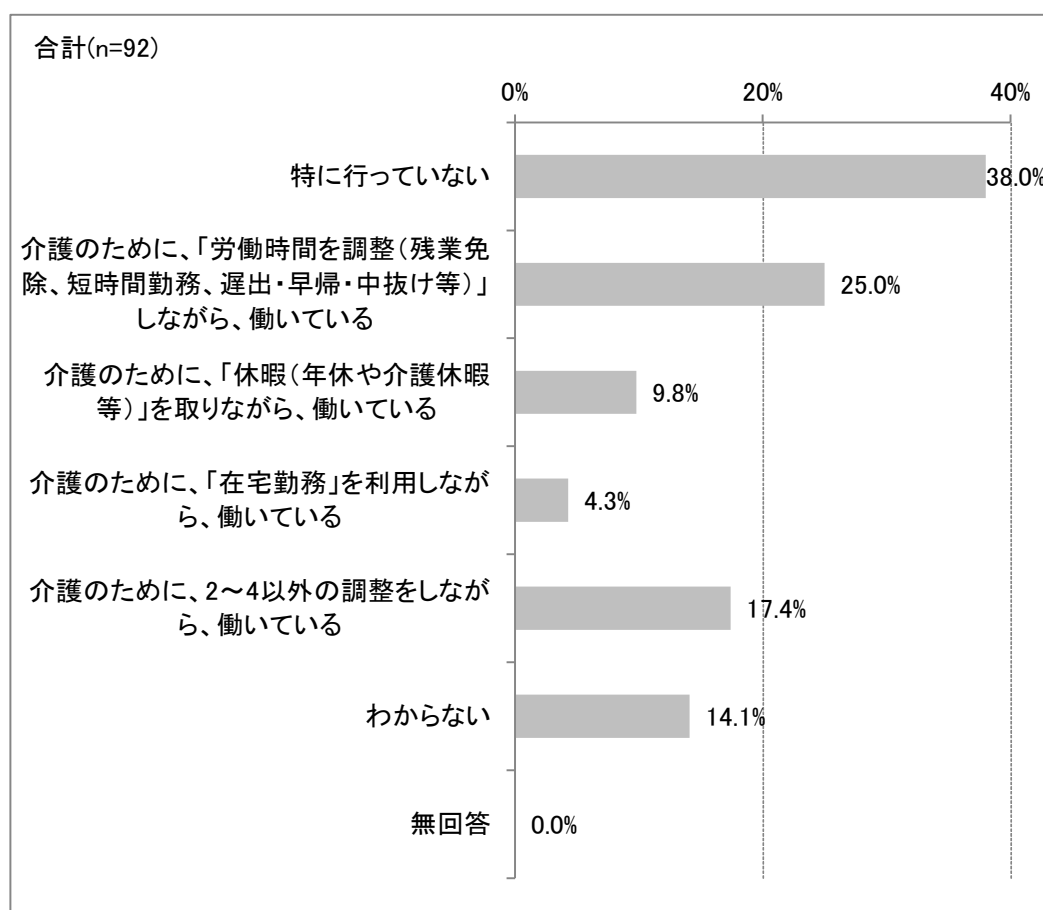
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 38.0%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（25.0%）」、「介護のために、2～4（前項目）以外の調整をしながら、働いているが（17.4%）」となっている。

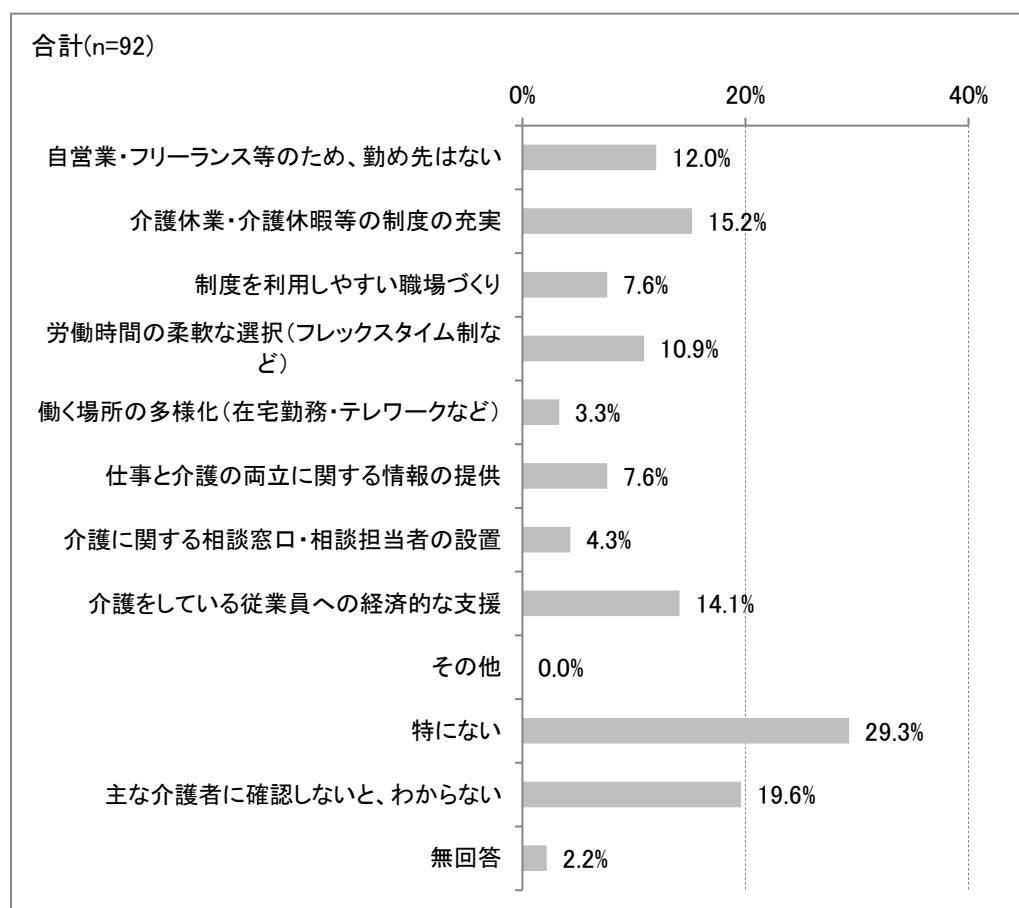
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「特にない」の割合が最も高く 29.3%となっている。次いで、「主な介護者に確認しないと、わからない（19.6%）」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実（15.2%）」となっている。

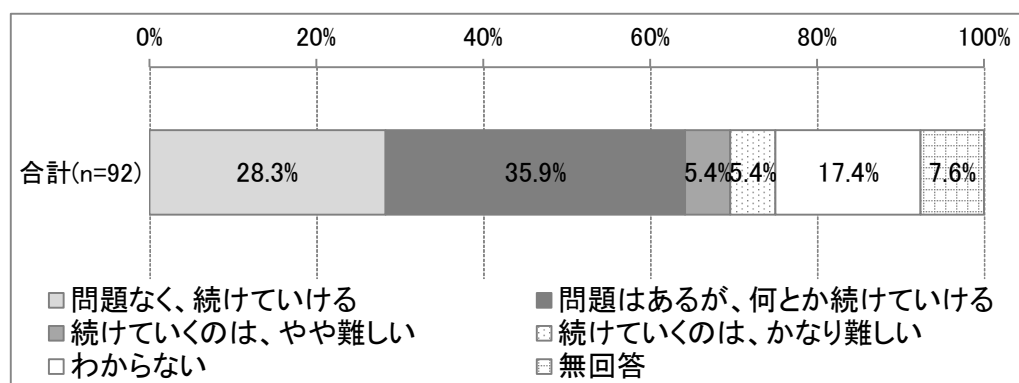
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 35.9%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (28.3%)」、「わからない (17.4%)」となっている。

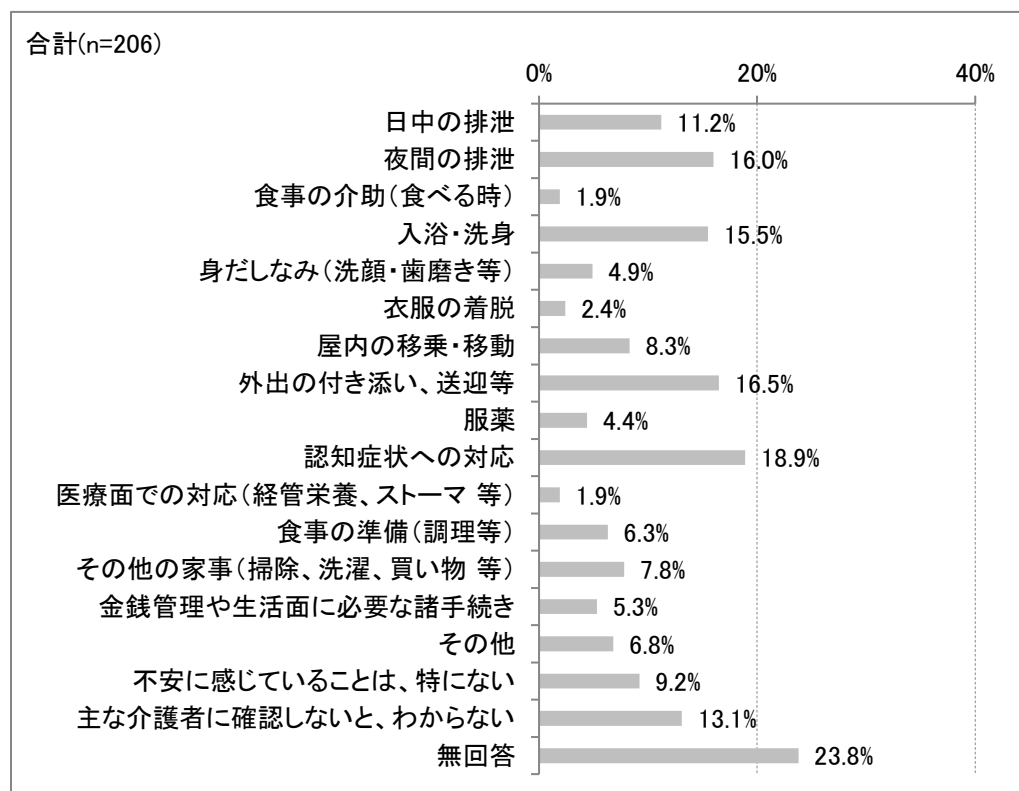
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

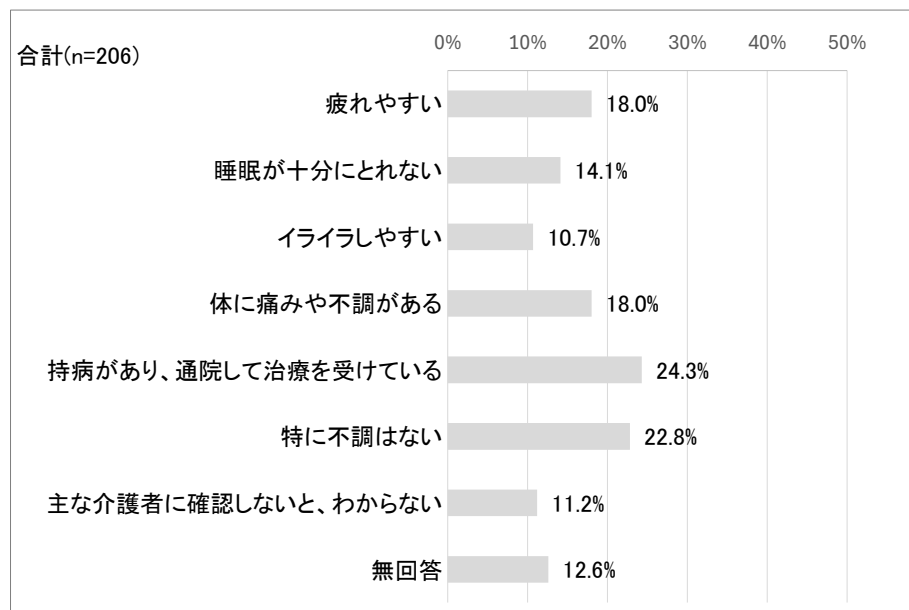
「認知症状への対応」の割合が最も高く 18.9%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等 (16.5%)」、「夜間の排泄 (16.0%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



(6) 主な介護者の健康状態

図表 2-6 ★(市)主な介護者の今の健康状態についてご回答ください（2つまで選択可）

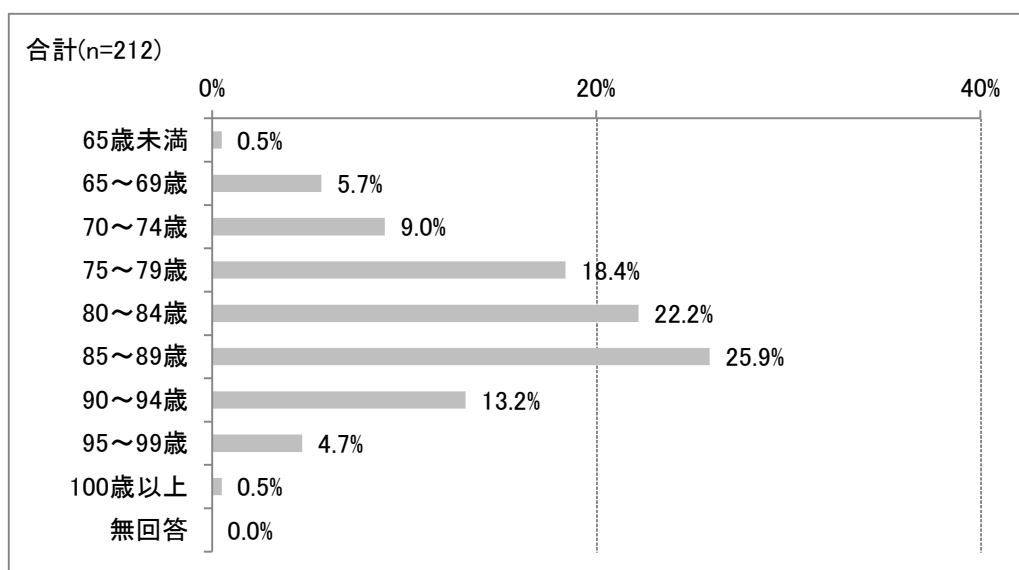


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89 歳」の割合が最も高く 25.9%となっている。次いで、「80～84 歳（22.2%）」、「75～79 歳（18.4%）」となっている。

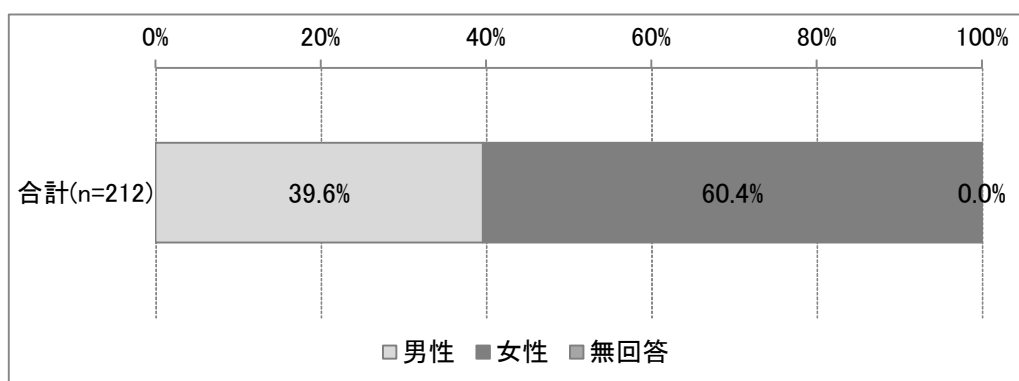
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く 60.4%となっている。次いで、「男性（39.6%）」となっている。

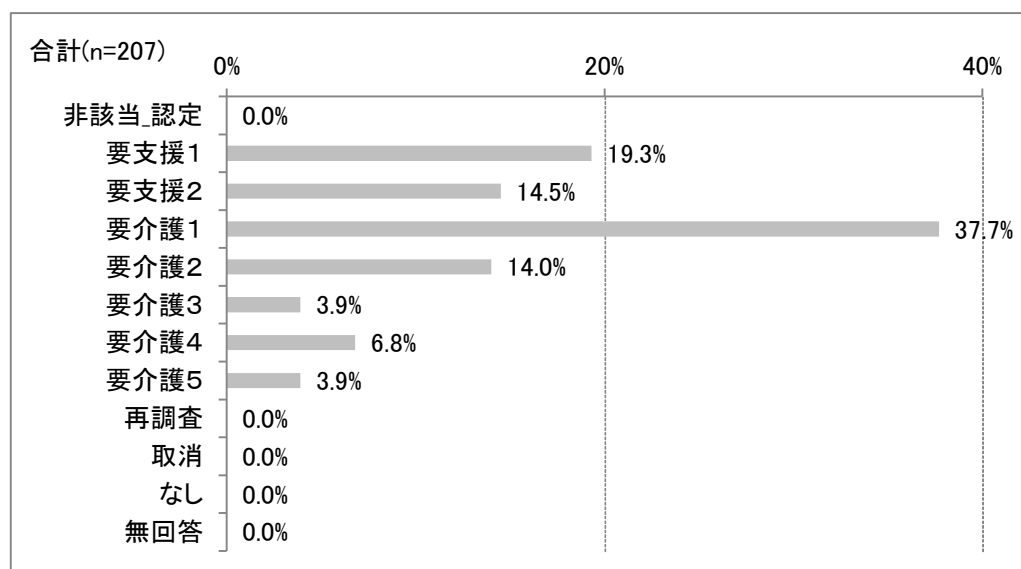
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」の割合が最も高く37.7%となっている。次いで、「要支援1（19.3%）」、「要支援2（14.5%）」となっている。

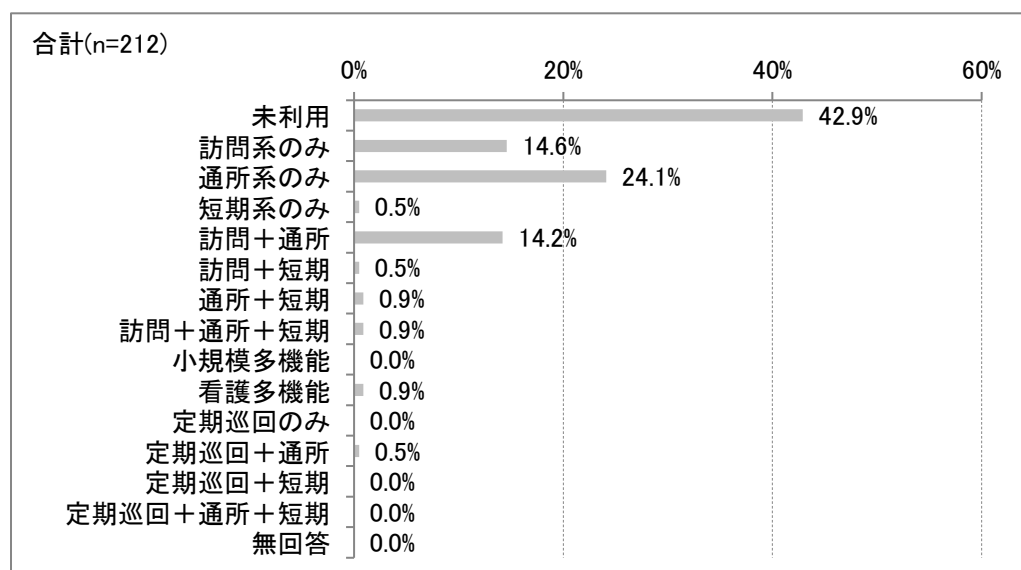
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く42.9%となっている。次いで、「通所系のみ（24.1%）」、「訪問系のみ（14.6%）」となっている。

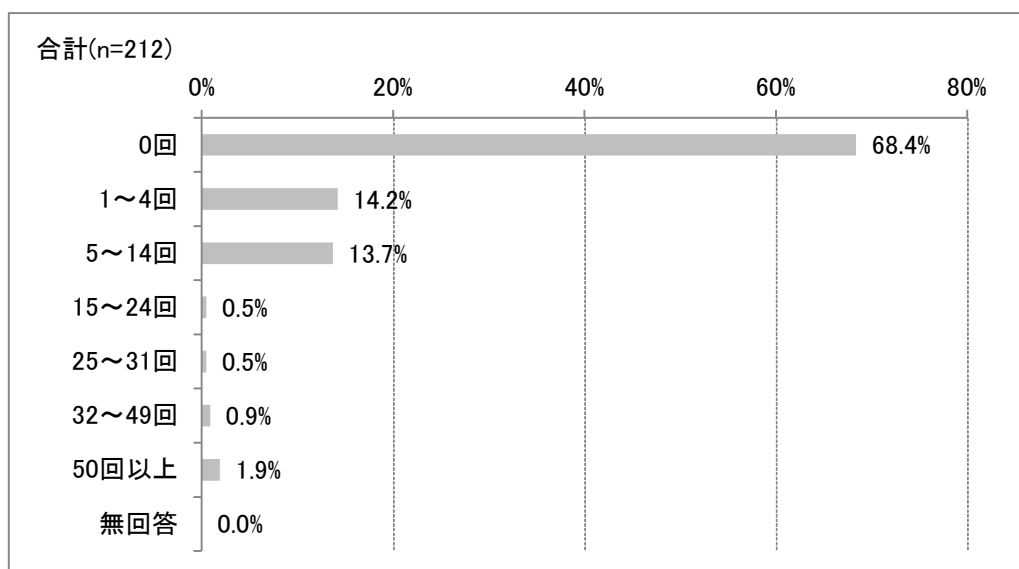
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 68.4%となっている。次いで、「1～4回（14.2%）」、「5～14回（13.7%）」となっている。

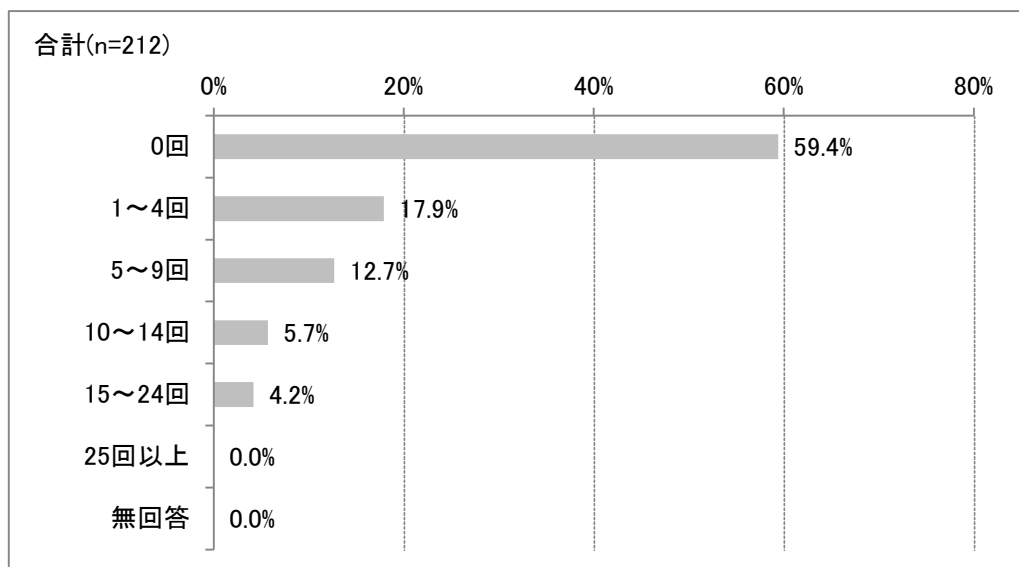
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 59.4%となっている。次いで、「1～4回（17.9%）」、「5～9回（12.7%）」となっている。

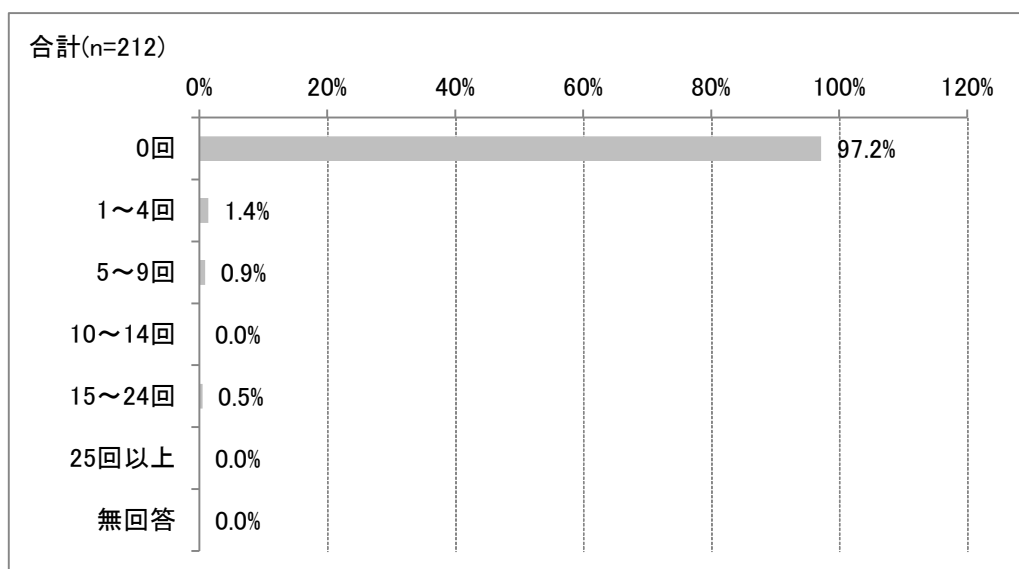
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 97.2%となっている。次いで、「1～4回（1.4%）」、「5～9回（0.9%）」となっている。

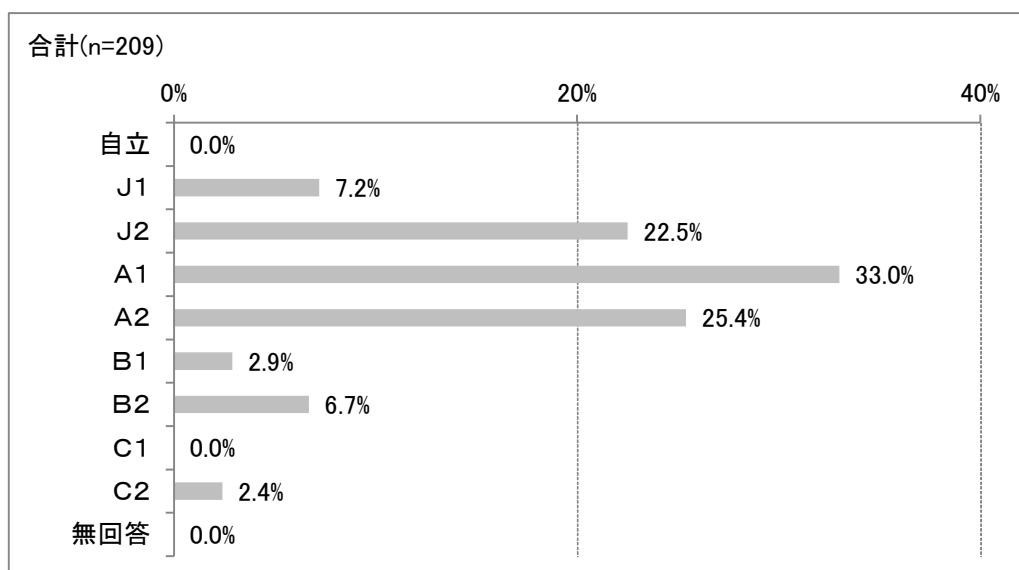
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 1」の割合が最も高く 33.0%となっている。次いで、「A 2（25.4%）」、「J 2（22.5%）」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅰ」の割合が最も高く 34.0%となっている。次いで、「Ⅱ b（24.9%）」、「Ⅱ a（15.3%）」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

